

2017/12/10

## 「闇の中に輝く光」

「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ 1:4-5)

この方とは、イエス・キリストです。闇の中に輝くというイエス・キリストを理解するには、闇を理解する必要があります。人にとっての闇とはなんでしょうか。

「人の心は病苦をも忍ぶ。しかし、ひしがれた心にだれが耐えるだろうか。」(箴言 18:14)

「心」は「霊」とも訳され、「ひしがれた心」とは、魂が打ちひしがれている状態のことです。それは、神に愛されている自分が見えないために起こります。人はこれに耐えることができないのです。

それはちょうど建物の土台が見えないために不安を感じるようなものです。私たちの教会堂は、ちょっとやそっとの災害にはびくともしない非常に強固な土台の上に建てられていますが、その土台は見えません。ですから、その上で礼拝することにいちいち喜びも感じないし、地震が起きたらどうなるだろうかと不安になることもあるでしょう。

ちょうど神と私達の関係も同じです。私たちは、イエス・キリストという非常に強固な土台の上に建てられており、守られているのですが、それが見えないために、自分は一人で生きていると思い、不安を感じています。これが神に愛されている自分が見えないために、霊(魂)が打ちひしがれている状態です。

その結果、すべての人が自分を受け入れることができなくなってしまいました。これが私たちを苦しめている闇なのです。

このようなことを聞くと、ある人は、私は自分のことが好きだし、自分を受け入れていると言うかもしれません。しかし、誰もがほかの人にあこがれを抱いたり、誰か他の人を目標したりして生きるものです。それは、自分を受け入れられていないことの裏返しです。また、自分にはないものを求めるのも、自分を嫌っているということです。〇〇が手に入ったら幸せになれると何かを求めるのも、自分を誰かと比べたり、人の目を気にして生きたり、自分を責めたり、赦せなかったりするのも、自分を嫌っていることの表れです。すべての人がこのような闇を持っており、自分のことを受け入れたいと強く願っているにもかかわらず、受け入れられないでいるのです。もし、私は自分を完全に受け入れていると言う人がいるなら、それは偽善者です。

自分を受け入れられないのは、神の愛が見えないゆえの不安から来るものです。そして、自分を受け入れられないと、人を受け入れられないという悪循環が始まります。誰もが、愛せないという苦しみを背負っているのです。聖書はこれを罪と呼びます。

「律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。」(ガラテヤ 5:14)

罪とは、神の律法に逆らうことであり、神の律法は、自分を愛し、人を愛するように教えています。ところが、私たちは自分を愛せないし、人を愛することもできません。つまり、私たちは神の律法に逆らって生きているのです。これが私たちの現状です。私たちは皆、人を愛せないゆえに罪人なのです。

程度の違いはあれ、すべての人が自分を受け入れられず、人を受け入れられないつらさを持っています。人はこの闇に耐えることができず、なんとか脱出しようとしてもがきます。そうしないと自分の生きる意味が見えないからです。その結果、自らの行いで自分を受け入れようとするようになりました。ところが、行いで自分を受け入れようとすると、ますます、できない自分を意識するようになります。自分が情けなく、罪責感が増し加わります。それでも闇の中から脱出したいという切実な思いは消えず、次の段階として、人は嘘をつくようになります。

それは、立派でもないのに、自分を立派に見せようとする嘘です。嘘をついて自分をごまかしてまで、自分を受け入れ、人にも受け入れてもらおうとするのは、ただ、闇から脱出したいからなのです。

「忌まわしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいのように、あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。」(マタイ 23:27-28)

自分の中の嘘や汚い思いを覆い隠し、外側を白く塗り固めて生きる…。すべての人は、例外なくこういう生き方をしています。すると、次に待っているのは、人を裁く生き方です。人を裁くということは、お前は間違っていると相手を責めることです。裏を返せば、私は正しいと言っているのと同じです。つまり、裁けば裁くほど、自分が正しいことを確認する効果があるので、私たちは自分を受け入れる手段として人を裁くのです。人と争うのも、自分は正しい人間だと認めさせることで、自分を受け入れようとしているのです。実にむなしいことですが、そうまでしてでも、私たちは闇の中から脱出したいと願っているのです。

もちろん、中には人を裁かないで自分を受け入れようと、頑張る人もいます。よく「自分へのごほうび」などと言われますが、自分自身に対して、「よく頑張った。偉いよ。」とほめることで、自分を肯定しようとするのです。しかし、それも一刻の効果しかありません。また虚しさに襲われます。

このように、私たちは、何としても自分を受け入れようとしてもがいているにもかかわらず、自分を受け入れることができないのです。結局、自分で自分を受け入れる手段はありません。すべての人が抱える心の闇から脱出するのは、人間の力では不可能であるため、イエ

ス・キリストが必要なのです。イエス・キリストは、この闇に対する唯一の光なのです。

イエス・キリストとはどのような方か

イエス・キリストは、私たちが頑張ってイエス様のところに行くのを待っているわけではありません。イエス様のほうから私たちのところに来られ、私たちをそのまま受け入れられる方です。

イエス様は、姦淫の女を赦しました。この女は、貧しさゆえに体を売っていた少女かもしれません。誰からも相手にされずうらぶれていた女性かもしれません。でもイエス様は、「私はあなたの罪を赦しているからね、受け入れているからね、心配しなくていいよ」と助けてくださったのです。この女性は初めてありのままを受け入れてくれる人に出会いました。良い自分を見せている時ではなく、罪の場面を見つかって、なお、受け入れられたのです。それから彼女の人生は変わりました。

ペテロも、頑張る自分を認めてもらうことでイエス様に受け入れてもらえると思っていた。ですから、彼自身が受け入れようとしていたのが、頑張る自分自身です。ところが、ペテロはイエス様を裏切るという後悔してもしきれない過ちを犯してしまいます。ペテロの価値観では、「お前みたいなやつは弟子じゃない」と言われて当然の過ちです。しかし、イエス様は、ペテロを裁きませんでした。「なぜ裏切った」とも「悔い改めよ」とも言わず、ただ「私の羊を養いなさい」と言われたのです。

イエス様は、このように、私たちを無条件で受け入れてくださる方です。イエス様ご自身も、たとえ話でこのことを教えておられます。放蕩の限りを尽くしたダメ息子が、一文無しになり、飢えに苦しんだ時、たとえ奴隷になっても死ぬよりましだと思って、父親のもとに帰ってくる物語です。この時、父親は、一言も責めないで抱きしめ、美しい服を着せ、彼の言い訳に耳を貸すこともせず、彼のために宴会を開きました。あなたを愛しているから、と無条件で彼を受け入れたのです。

イエス様は、誰のことも裁かないで受け入れられました。イエス様の全き愛を受け入れ、人々は、初めて自分を受け入れてくれる方を知り、闇の中に光を見ました。イエス・キリストこそ、人類の歴史の中で唯一輝く光です。

イエス・キリストは、無条件であなたを受け入れる、あなたの味方です。自分を受け入れる唯一の道であり、闇から解放される唯一の道です。

私を無条件で受け入れてくださっている方がいることを知るなら、私も自分を受け取ればよいと知るので。それにより、私たちは自分の存在を認める道を受け取るに至ります。

「闇の中の光」とは、自分を受け入れ、愛せるようになる道です。この道を歩み始めることによって、自分を愛せるようになり、それと比例して、人を受け入れられるようになっていくのです。これが自由です。

私たちを苦しめているのは、人を愛せないことですから、自由とは愛せることです。それは、あなたが神に愛されていることを受け取り、神に愛されていることを認めることから

始まります。「こんな罪人の自分が…」と思うかもしれませんが、神に愛されている自分を認める時、罪が取り除かれて、人を受け入れ、人を愛せるようになるのです。

人々は、イエス・キリストを通して自由を手にすることができました。これが福音です。こうして、キリスト教は世界中で信じられるようになりました。このキリストの誕生を祝うのがクリスマスです。

「主は仰せられた。「まことに彼らはわたしの民、偽りのない子たちだ」と。こうして、主は彼らの救い主になられた。彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、ご自身の使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって主は彼らを贖い、昔からずっと、彼らを背負い、抱いて来られた。」(イザヤ 63:8-9)

私たちが知らなかっただけで、イエス・キリストは、昔からずっと私たちが背負って抱いてくださっていたのです。私たちの土台は、イエス・キリストだったのです。自分の土台に気づき、私たちは初めから神に受け入れられ、捕らえられていたのだと知ると、がんばる必要もないことに気づきます。こうして、私たちはありのままの自分を愛せるようになり、自分を愛することによって、人を愛せるようになっていくのです。

勇気とは、自分を受け入れることです。これが一番難しいことです。あなたが輝くのは、何かができる時ではありません。神に愛されている自分に気づき、受け入れる時です。私たちが闇から脱出する唯一の方法は、あなたをそのまま受け入れて下さっている方に目を留め、自分自身を受け入れることです。そうすればあなたは自由になれます。